

FURUTECH

Review

SPEAKER BOOK 2011

2011 May - Japan



FURUTECH

フルテック

強引さや粗さのまったくない、高密度で圧倒的な情報量

文：小野由夫 Yushio Ono

フルテックの企業理念である「ビュア・トランスミッション」とは、素材の純度追求と、伝送性能をいかに高めるかを象徴するものだ。たとえば別冊にも記した「 α (アルファ)プロセッシング」は、金属の分子構造にまで立ち入り、その配列を規則正しくすることで伝送精度を高めようというもの。その発端は、古河電工のPCOCC研究会社であった創業時から一貫して不変である。

「Speakerflux」は、いわばその究極を目指したものだ。同社のフラッグシップシリーズに当たるこのスピーカーケーブルは、導体に α -OCCを採用、カーボンパウダー混入の高機能PVCを絶縁材に使用することで、振動とノイズを遮断している。プラグ部分は高純度銅に非磁性材ロジウムメッキを施したもので、信号ロスと経年変化を防いでいる。ケーブルとプラグに α プロセス処理が成されていることはいうまでもない。そのサウンドは、まさにエネルギー全開というほどに勢いのあるもので、それでいて強引さや粗さのまったくない、高密度で圧倒的な情報量を味わわせてくれる。

この他にも、「Evolution Speaker II」や「Speaker Reference III」などの完成品は、いずれも高級なジャケット仕上げ。また、FAシリーズや α シリーズといった切り売りタイプも各種グレードがラインナップされており、取り回しも比較的容易な筈になっている。



α -OCCを導体を使用したジャンパーケーブル、プラグ部分のSpeakerflux S (¥ 29,900) とバナナプラグのJumperflex-B (¥ 18,800) を用いる。長さ300cm、4本1組。



Speakerflux ¥ 29,900 (2m / 1ペア)
¥ 52,900 (3m / 1ペア) 長さ・両手の特注あり



Evolution Speaker II ¥ 29,900 (2m / 1ペア)
¥ 52,900 (3m / 1ペア)



ランドマフール/テクノロジー

古河電工の関連会社として1966年に創業した後、メーカーとして独立。1978年にオリジナルケーブルを引っ掛けて日本国産PVCに代わり、最初高純度の銅線を使用した「 α 」という導体や、マイナスイオン効果の高純度銅線に特殊な電磁特性を加えた「 α 」(アルファ)プロセスなど、素材の改善にも力を入れている。また、品質にこだわった電源プラグやコンセント、ターミナル等も多数手付け、その多くが国内メーカー製品に採用されている。